

○平成14年度海外派遣研修

「ニュージーランドのマタニティケアと助産師の活動についての研修」

看護学科 助手 永瀬 つや子

○期 間 平成14年9月1日～9月15日(15日間) ※ 出発日, 帰着日も含む。

○ 研修先

国 名:ニュージーランド

都 市 名:クライストチャーチ

研修機関名:New Zealand College of Midwives (NZCOM),

Midwifery and Maternity Provider Organization (MMPO)

Christchurch Polytechnic School of Midwifery, Women's Hospital, Lincoln Hospital,

Burwood Birthing Unit, Christchurch Domino Midwives, Pegasus Maori Health,

1. 研修の目的

- 1) ニュージーランドの保健政策におけるマタニティケアを講義と実践活動を通し, 助産師の係わり合い, 特に開業助産師の役割や位置づけ, 異常時の対応や他の医療機関との連携について考察を深める。
- 2) 助産師が自律的な活動を行う上で基礎となる助産教育, 特にダイレクトリエントリーにおける教育制度やシラバス, 教育方法について調査及び実際の講義に参加する。
- 3) 病院やバースユニット, 開業助産師の活動, 僻地医療, 少数民族へのケアについて研修し, 各施設や場所による助産師の活動の特徴や違いについて研修や討議を行い, 今後の日本の助産活動やマタニティケアのあり方について考察を深める, その方向性や向上にむけて大学教育の中で応用していく。

2. 研修の概要

- 1) New Zealand College of Midwives (NZCOM,ニュージーランド助産師協会) とMidwifery and Maternity Provider Organization (MMPO, 助産師の活動を支援するMPO) においてニュージーランドのマタニティケアのシステムについて説明及び意見交換を行った。そして、Canterbury/West Coast州の助産師定例会議に参加した。
- 2) 以下の助産師の活動現場を訪問し、助産師のケアについて研修を行った。
 - (1) 開業助産師 (Self Employed Midwife or Independent Midwife)
 - ① Christchurch Domino Midwives (グループで妊婦健診用のオフィスを開設)を経営する助産師とともに助産師のオフィス訪問後、産褥4日目～6週までの7組の褥婦・新生児訪問に参加した。
 - ② 2人1組で活動する開業助産師とともに、妊婦家庭での妊婦健診1名、病院施設を利用してNonstresstest(NST)検査2名、死産後の褥婦訪問1名、Standards Review Committeeへ参加した。
 - ③ 家庭出産サービスを提供する助産師に活動の概要や家庭出産用の分娩キットの説明を受けた。
 - (2) 病院勤務助産師
 - ① Burwood Birthing Unit (助産師が管理してマタニティケアを実施する施設。医師は常勤していない)に勤務するCommunity Midwife (病院勤務助産師, 活動内容はほぼ開業助産師と同じ)とともに、Birthing Unitでの3名の妊婦健診、2組の産褥家庭訪問に参加した。
 - ② Birthing Unit である Burwood Birthing Unit と Lincoln Hospital で勤務する Core Midwife(3交代勤務助産師)から、Birthing Unitでのケアや助産師の活動についての研修を受けた。
 - ③ 三次医療産科病院 である Women's Hospital で、クライストチャーチ全体の助産師教育担当助産師、乳房ケア専門家、産科病棟師長より病院や勤務助産師の役割、継続教育について研修を受けた。
 - 3) Christchurch Polytechnic School of Midwiferyで、助産師教育の概要の説明を受けた。そして、1年生の助産概論の講義と選択科目の女性保健の講義に参加した。
 - 4) Pegasus Maori Healthの代表者よりマオリ族の文化・思想と保健医療サービスについて研修を受けた。

3. まとめ

- 1) ニュージーランドの助産師活動の変遷

- (1) 1980年代まで、出産の医学的管理化や助産が看護に同化吸収され、助産師活動が縮小していた。
- (2) しかし、女性たちのよりよい出産ケアを望む声とその声に答え、助産師自身が自律性をもち業務を行える権利を獲得する必要性から1989年にNZCOMが成立した。
- (3) 助産師が独立した専門職として社会からも認められ、女性の求めるサービスを提供するための法律改革を行い、1993年に「保健と障害に関するサービス条例」が成立した。この法律により同一行為同一報酬の原理が認められた。これにより、助産業務の自律が認められ、専門職性を獲得し、医師のケアと同等のケアを提供していることが社会的に認められた。現在、全国の助産師数は2,000名弱である。(85%の助産師がNAZCOMの会員)

2) マタニティケアについて

- (1) 妊産婦は、助産師、家庭医、病院専門医、私的産科医から自分の妊娠・出産を通じてのケアの担当者であるLead Maternity Carer(LMC)を選択できる。妊娠14週頃から出産後6週までの間、24時間体制で妊産婦の望む専門職によってケアが提供される。
- (2) NZCOMは、助産師の紹介や妊産婦ケアの相談・苦情受付を実施、妊産婦の権利擁護を行っている。
- (3) 費用は国の財源よりLMC等に支給され、妊産婦の負担はない。また、公的病院でのケアに対する費用や妊産婦教育に関しても無料である。1人の妊産婦あたり1,500NZ\$程度支払われる。(LMCが5人の妊産婦を担当して得る収入はニュージーランドの中等以上、生活するうえで問題ない金額となる)
- (4) 妊産婦は自由にLMCを変更することができ、出産場所も病院から家庭と望む場所を選択できる。
- (5) 私的産科医等や私立病院での費用、超音波検査、緊急時以外での移送費は有料となる。
- (6) LMCの約66%は助産師である。助産師は病院と access agreement (病院を利用する権利契約) を結ぶことで、出産時の施設利用や緊急時の専門家のアドバイスや処置を得ることができる。
- (7) 病院がオープンシステムであり、開業助産師がLMCでも病院を出産場所を選択できる。正常出産である限り同じ助産師がケアを担当する。1999年の報告では全出産の43.4%は3次産科施設、44.4%は2次産科施設、12.1%がBirthing Unitであった。

3) 助産師ケアの評価システム

助産師は、年に1回、NZCOMの助産師2人と消費者団体(女性の団体)の2名から構成されるStandards Review Committeeによってケアの評価を受け、マタニティケアの質の向上を図っている。

2) 助産師の活動の特徴

- (1) 開業助産師は、通常2人1組で活動を行い、お互いの妊産婦に責任をもってケアを行っている。そうすることで、担当助産師の病気や急な用事で妊産婦のケアが実施できなくなることを防いでいる。
- (2) 家庭出産や僻地での出産の場合、LMCに支払われる金額は通常のコストより多く払われる。また、家庭出産の場合、手伝いに入った助産師へも支払いがある。
- (3) 訪問内容は新生児・褥婦の健康診査、育児等の相談やケア、専門家のケアが必要な場合には医師やその他のサービス機関への紹介を行う。ガスリー検査採血や抗生物質等の処方なども行う。
- (4) 医師がLMCを担当した場合、通常産褥の家庭訪問は医師の契約している助産師によってなされる。

3) 助産師教育

- (1) 1992年から看護師教育を受けないダイレクトエントリーの3年間の助産師学士課程が開始となった。
- (2) 3年間で最低、理論学習1500時間、臨地実習1500時間、30例の出産介助が義務づけられている。
- (3) 学生代表がNZCOMの会合を始め、助産師等の会合に参加し、助産師に求められる社会的役割について学ぶ。また、学生の時から助産師活動向上に向けての活動に参加していく。

4) マオリの文化と保健医療

マオリ文化の見直しはなされ、マオリの文化を尊重した保健医療システムを検討・実施している。

5) 全体を通して

ニュージーランドの助産師の活動は、ケアの受けてである女性の理解と協力を得て、助産師が社会に働きかけて発展させてきた。そして、国のシステムとして助産師が女性の妊娠から出産、産褥を通して継続的にケアに関与している。ニュージーランドは、世界の中でも助産師の専門性を最大限に活用し、母子保健政策を充実させている。この国の方式を日本に取り入れるのは病院のシステム、医療行政や保険のしくみが違うため困難な点が多い。しかし、助産師が妊娠・出産・産褥を通して妊産婦を継続的にケアしていくこと、女性のニーズに応え、女性とともによりよいケアシステムをつくりあげることが妊産婦を始めとした国民の心身の健康にとっても必要なことである。日本の助産師がその専門性を活かし積極的に母子保健行政の一役を担うためには教育の充実と社会への働きかけが必要であることが、今回の研修で学ぶことができた。